

適用病害及び使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数			
芝	コガネムシ類幼虫	2,500倍	0.5L/m ²	成虫産卵時期～幼虫発生初期	2回以内	散布	2回以内			
		1,000倍	0.2L/m ²							
		500倍	0.1L/m ²							
	シバオサゾウムシ	2,500倍	0.5L/m ²	発生初期						
		1,000倍	0.2L/m ²							
		500倍	0.1L/m ²							
つつじ類	チガヤシロオカイガラムシ幼虫	2,500倍	0.5L/m ²	発生前～発生初期	2回以内	散布	2回以内			
	ケラ	2,500倍	0.5L/m ²	発生初期						
	ツツジグンバイ	5,000倍	1.0L/m ²	発生前		株元灌注	5回以内(株元灌注は2回以内、土壤混和は2回以内)			
かえで	モミジニタイケアプラムシ	5,000倍	1.0L/m ²	発生前			2回以内			

有効成分と性状

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

種類名	イミダクロプリド水和剤
商品名	タフバリアプロアブル
有効成分	イミダクロプリド(化管法1種) ……20.0%
性状	白色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	400mL×10本

人畜毒性 (急性) 医薬用外劇物	経口	ラット(♂)	LD ₅₀ 3,200mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
	眼刺激性	ウサギ	刺激性なし
	皮膚感作性	モルモット	皮膚感作性なし
	コイ	LC ₅₀ 579mg/L(96hr)	
水産動植物に 対する影響	ミジンコ	EC ₅₀ 240mg/L(48hr)	
	藻類	ErC ₅₀ 251mg/L(0-72hr)	

△ 効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守ってください。
- 本剤を適用作物群に属する作物またはその新品种に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してください。(病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。)

△ 貯蔵上の注意事項

- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した場所に保管してください。保管は鍵をかけ、盗難・紛失の際は、警察に届け出してください。

魚毒性等…散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄液はタンクに入れてください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



お問い合わせ先

殺虫剤 芝用



コガネムシ、ケラ、チガヤシロオカイガラムシ
防除の決定版

医薬用外劇物

登録商標 第2515765号



早めの散布で長く効く

特長

● 高い殺虫効果

- 少ない有効成分量でコガネムシ類の孵化直後から若齢幼虫まで高い殺虫効果を示します
- 接触毒と食毒効果がありますが、食毒効果のほうが高いと考えられています
- シバオサゾウムシ・チガヤシロオカイガラムシにも高い殺虫効果があります

● 優れた残効性(約3ヶ月)

残効期間が長く、散布回数の軽減が可能です。また、適度な土壌吸着があるので、下方への流亡が少ない薬剤です

● 作業の省力化が可能

散布水量を0.1L/m²まで減らすことができます(コガネムシ類・シバオサゾウムシ・ケラ)

上手な使い方

春に処理して約3ヶ月の残効 活発な幼虫の摂食行動を抑制し、芝生を守ります

■ タフバリアフロアブルの散布適期

予防的に早めの散布することによって、優れた効果を発揮します。

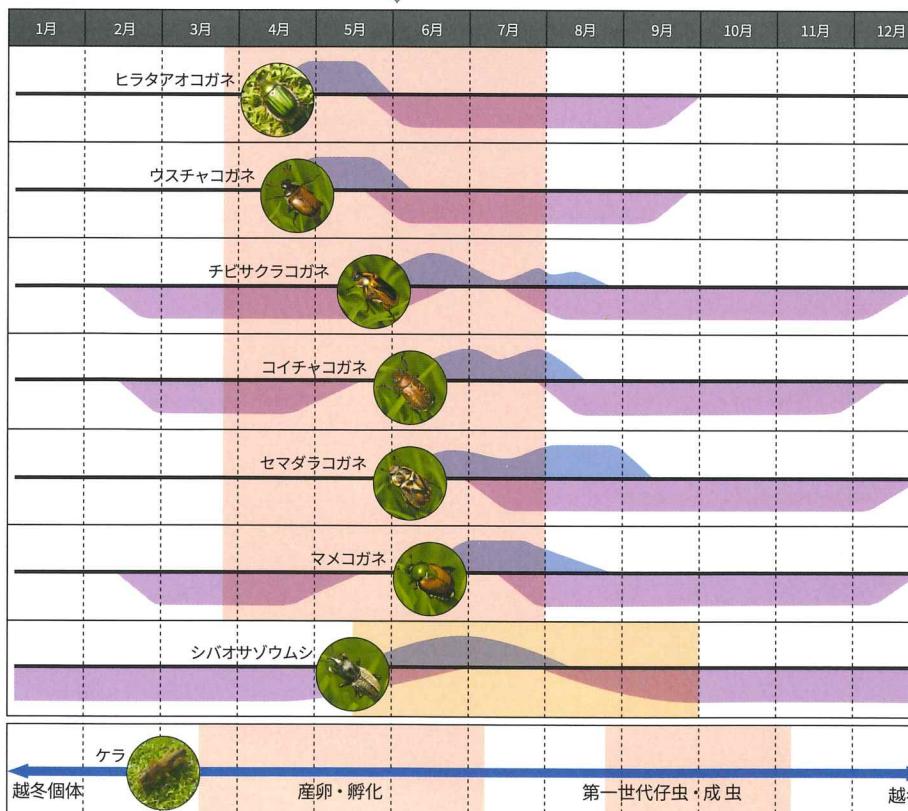
試験場所：(株)理研グリーン研究所内コウライシバ圃場

調査日：2002年8月20日

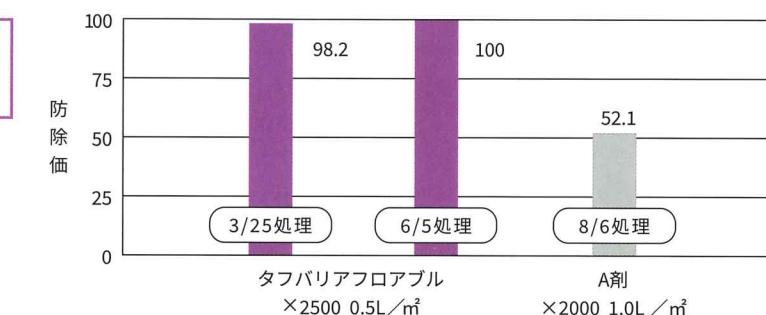
対象害虫：オオサカジコガネおよびチビサクラコガネ幼虫

■ 発生と防除時期

タフバリアの
散布適期



*気候、土壤、管理方法によっては異なる場合があります。



成虫 幼虫

※さまざまなコガネムシに使用できます
※この表は関東～東海地方の標準的な幼虫の発生消長を示したもので、地域、天候等により発生の時期は前後します

コガネムシに対する効果

芝の根の周辺に有効成分の処理層が形成され、長く安定した効果が期待できます

タフバリアフロアブル



孵化後、徐々に処理層まで移動

降雨



地下20cmまで処理層が形成され安定した効果を発揮

処理後、降雨や灌水によって
有効成分が土壌中に浸透
20cm程度の有効成分の
処理層を形成

チガヤシロオカイガラムシに対する効果



チガヤシロオカイガラムシによる被害(写真-1)



無処理区



タフバリア処理区



白い殻の
チガヤシロオカイガラムシ成虫



殻を一部はいだ
チガヤシロオカイガラムシ成虫
(写真-2)

幼虫の発生は5月下旬～6月と8～9月頃の2回、
この時期が散布適期です。

散布適期

散布適期



チガヤシロオ
カイガラムシ

